

## 2025 新潟大学（前期）数学（理系）概評

出題分析		
試験時間 90 分	配点 学部により異なる	大問数 学部により異なる
分量（昨年比較）〔減少 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 増加〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 難化〕	
<p><b>【概評】</b></p> <p>新潟大頻出の分野が本年度も出題されたが、本年度は昨年度とは違い文系数学との共通問題が復活したため、問題による難易度の差が見られた。複素数平面は 2020 年より 6 年連続の出題である。</p> <p>また、毎年頻出であった三角関数が今年はお題されなかった。難易度は大問 6 が例年よりかなり易しくなり医学部受験者は必答問題である。ただ、全体とすると計算量の多い問題が多く難易度は昨年並みである。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	平面ベクトル（数学 C）	内積に関する基本的な問題。ベクトルの面積公式を使うと計算が楽である。文系数学との共通問題。	やや易
2	微分積分総合（数学 III）	部分積分を利用する問題。類題の経験がある受験生も多いだろう。計算ミスに注意したいところである。	標準
3	数列総合（数学 B）	よくあるタイプの問題であるが、全体的に量の多い問題である。(5)は数学的帰納法が明快である。	標準
4	合成関数（数学 III）	最終的に解の対応問題に帰着される問題。きちんとグラフが描ければ、共有点の個数を求めることができる。	やや難
5	複素数平面（数学 C） 微分法（数学 III）	複素数の標準問題。極形式を使いこなすことがポイントである。(4)の極値計算は普通に求めてもよい。	標準
6	微分法（数学 III） 数列の極限（数学 III）	医学部専用問題。この形式になってから最も易しい問題であり、この問題を落としてしまうと医学部合格はできないレベルである。	やや易

合格のための学習法

まずは、教科書の章末問題レベルの問題をきちんと解けるようになることが大事です。その上で、新潟大頻出の分野や解法にスポットを当てながらきちんと演習を積んでいくことです。医学部医学科志望者は、さらにハイレベルな問題にも意欲的に取り組んでいきましょう。代ゼミの授業などを利用して1年間頑張ってください。